

## 検討テーマ1について

死刑制度を全面的に廃止すべきであるか否かの国民動向の把握という従前の質問の目的は変更しないするなら、問2は、回答の取り方が偏っているとされるが、従前の調査との継続を重視したい。

ただし、「どんな場合でも」「場合によっては」の場合が何を意味するか、1980年代調査までは、種々の質問の後のため、違和感が少ないが、いきなり「どんな場合でも」は不安を生じさせている可能性がある。1989年までの方式の方が、意図が伝わる。一方、日本人の国民性調査で、1990年以降、中間回答が多くなる傾向があり、その意味で、選択肢1よりも、あいまいな選択肢2が回答されやすい傾向になってきた可能性も否定できない。

Q2そのものは変更せず、選択肢2の内容を探れる質問を追加してはどうか。ここで、SQb1の選択肢が「やむを得ない」理由というより、「死刑は必要」の理由ばかりだとの資料の指摘は、そのとおりと思われ、それと合わせて、SQb1の選択肢の追加を提案する。

提案：SQb1の選択肢に次を追加する

(オ) 死刑は廃止する方がよいと思うが、今の社会状況では廃止できない  
この考えの人には、むしろSQa1の理由が対応する。

SQb2の質問と重複するかもしれないが、差支えないのではないか。

ちなみに、Q3はQ2SQa1の選択肢(オ)と重複している。

## 検討テーマ2について

A案の質問構成に賛成 すなわち、終身刑については全員に質問する。

ただし、資料はわかりにくいのではないか。

我が国では、死刑の次に重い刑は無期懲役です。無期懲役は一生刑務所から出られません、仮釈放が適用されることがあります。これに対して、今の日本では採用されていませんが、一生刑務所から出られない「終身刑」と呼ばれる刑があります。

A案のQ4の選択肢が、なぜ「どうかにかかわらず」としてあるのか疑問。次を提案

- (ア) 終身刑を導入して、死刑を廃止する
- (イ) 終身刑を導入しても、死刑を存続させる
- (ウ) 終身刑は導入しないで、死刑を廃止する
- (エ) 終身刑を導入しないで、死刑を存続させる